



## 15学区のまなびの場

福山市東部市民大学は、年齢に関係なく誰でも学ぶことができる施設として2007年、15学区(引野蔵王千田御幸大津野坪生春日伊勢丘旭丘緑丘長浜野々浜幕山白吉台大谷台)が中心となり、福山市の支援を受けて誕生した。当初は、開講場所を8つの公民館に分散していたが、後に事務局(旧坪生公民館)と東部市民センター、幕山公民館の3ヶ所を主会場とし、毎年20前後の多彩な講座で、年間およそ700人が学んでいる。

## 講師、学生、地域をつなぐ

2代目学長の山口さんは、講師と連絡を取り合い、学生とも向き合う。「2週間に1回の授業というのが、心待ちにする絶妙のタイミングではないか。大学祭という発表の場も励みになります。また、どの講座も少し早めに来る学生さんがいるそう。朝起きて、今日は市民大学に行く日だーと楽しみにしているところがあるのがいいじゃないですか。学生同士で教え合う関係もすごく良い。いいが元気の源のよう

## 2週間に1回、元気の源

です」と嬉しくいいます。つい先日締め切った新年度の講座も、文化、音楽から健康、趣味まで、学生のニーズに添った講座ばかりどれも大人気。山口さんは、新たにホームページも開設し、会場を民間施設へも広げるなど、地域とのパイプ役も担い、意欲を見せる。「目標をもって、ポツポツやる人を応援したくなります」。

## 教育と生涯学習に携わる

山口さんの前職は教育ひとすじ。福山に生まれ、中学校の教員になると、剣道二段という持ち前の集中力でサッカー部やバレーボール部の顧問に就いた。「指導力というより、子どもたちの力あってこそその戦績でした」と今も子どもたちを称える。市教委で6年、県教育事務所5年。所長を経て加茂中の校長を務めた際は、文科省の「学校支援地域本部事業」に指定された。「学校と地域との関係作りを楽しんだ、素敵な4年間でした。今に繋がっているのかもしれない」と回想する。

その後、学校経営相談員として小中学校を回った後、2年前から現職。「ここでも入学式卒業式の挨拶があります。やはり、感謝感動思いやりの関係を大切にしようと呼びかけたいですね。大学以外に誰とも話せない人もいますと聞きます。私もたくさんこのことを学ばせてもらいながら、人と人をつなぐ役目を果たしたいと思っています」と描く山口さん。